

翔

百万石蝶談会 No 155

April 2002



舢倉島におけるアサギマダラ調査とこれまでの成果

日吉芳朗・日吉南賀子

■はじめに

輪島市街地沖50kmに位置する孤島舢倉島は、渡り鳥の中継地点として鳥界では著名な場所として知られている。そこで観察された野鳥の数は、2001年4月現在で332種にのぼり、鳥相の豊富さから渡り鳥のメッカとして国内はもとより、国外からも多くのバードウォッチャーを引き付けている（矢田新平、2001）。この島が渡りをするアサギマダラの中継点でもないかとの着想を、松井正人氏が持たれたのは2000年初秋のことである（松井正人、2001；日吉芳朗、2001）。実際、その年の10月初旬に、筆者らが予備調査を行ったところ、何人かのバードウォッチャーにより、多数のアサギマダラが観察されていることが判明した。この結果から、2001年春からの本格的な調査に備え「舢倉島アサギマダラプロジェクト」を発足させることとし、準備にとりかかった。

■舢倉島アサギマダラプロジェクト

島を訪れる多くのバードウォッチャーの方々に、本調査の趣旨を理解していただき、協力をお願いすることを第一に考えた。そのため、連絡船のキップ売り場や船内に掲示するポスター、宿泊施設の2軒の民宿へは、ポスター、マーキングガイド、『昆虫と自然』や『月刊むし』などに掲載されたアサギマダラ関連の別刷、記録ノートなどを準備した。

ポスターには、協力を依頼するために、プロジェクトは全国組織である事、鳥の渡りと同様たいへん興味深い課題であることを強調し、このプロジェクトに興味のある方は、ぜひ連絡していただきたい旨、住所、電話番号、メールアドレスを明記した。

民宿ノートには、アサギマダラを目撃された方は、このノートに日時、天候、数などを記入していただくとともに、もしマークのついた個体に出合ったなら、捕虫できなくともマークをできるだけ正確に記入し、可能なら写真かビデオをとっていただく。そして、必ず観察者の住所、氏名、よろしければ電話番号などを記入していただくことなどを書き添えた。

舢倉島アサギマダラプロジェクトの連絡先

◆百万石蝶談会

日吉芳朗 〒928-0001 輪島市河井町1部64-1 TEL (0768) 22-0355
Eメール hiyoshi@plum.ocn.ne.jp
松井正人 〒920-3121 金沢市大場町東871-15 TEL (076) 258-2727
Eメール asagi@jaco.ec.t.kanazawa-u.ac.jp

◆アサギネット

藤井 恒 〒617-0833 長岡京市神足雲宮5-111 TEL (075) 954-8247
Eメール pen@japan-inter.net

◆日本鱗翅学会アサギマダラプロジェクト

金沢 至 〒546-0034 大阪市東住吉区长居公園1-23 大阪市立自然史博物館
TEL (06) 6697-6221 (代)
Eメール kana@mus-nh.city.osaka.jp

また、日常的な観察が可能な、輪島市立上野台中学校舳倉島分校の先生と生徒諸君には、目撃記録をとっていただくことと、できたらマーキングをお願いすることにし、輪島高校定時制を卒業して島で働く海女さんらには、観察記録をとっていただくことをお願いした。

筆者らも可能な限り渡島することにし、分校の先生や海女さんから、できれば飛来の状況を知らせていただくことができないかともお願いした。

■2000年と2001年の成果

2000年と2001年の記録を合わせて、表1に記した。この記録は、バードウォッチャーおよび分校の先生からのお手紙、電話、Eメールによる連絡、民宿ノートの書き込み、筆者らの観察などにもとづくものであるが、中でもお手紙と電話によるものが多かった。このことから推して、連絡船や民宿でのポスターが役立っているものと思われる。

短期間の記録のため不明な部分も多いが、おぼろげながら推察されることは、初夏の5月末から6月初旬にかけてのごく短い期間と10月上旬に、島にかなりの数のアサギマダラがあらわれることである。前者は南から北への移動の際の立ち寄り、後者は北から南へ下る際の立ち寄り個体ではないだろうか。この時、天候が影響することは十分考えられ、天候が悪いと多くの鳥たちが島へ避難してくるように、蝶にもその可能性がある。

今回蓄積された多くの観察記録によって、ようやく舳倉島を利用するアサギマダラの実体を垣間見ることができ、これはこれまでになかった価値あるものと考えられる。特に初夏の飛来数の多さは、今回の調査で初めて判明したことである。

なお、2001年6月2日の日吉南賀子による2頭のマーキングは、この島での最初の試みと思われる。

■今後の計画

春と秋のアサギマダラの飛来時期に、筆者らはぜひ渡島してマーキングを試みたいと考えている。とりわけ石川県下では、春期のまとまった個体数の観察は、これまで困難とされていたので期待している。

また、全国各地のマーカークの渡島も歓迎したい。島への1日1往復の定期船や2軒の民宿、地理などについては、日吉芳朗(2001)を参考にさせていただきたい。

昨年皆さんからいただいた観察記録には、時間と天候の記録が抜けているものがあつた。貴重な記録をより有効に使うためにも、今年は時間と天候についても記録していただこうと、更なるお願いをしようと計画している。

■謝辞

記録の集積は、バードウォッチャーの方々および分校の水越千博教諭と生徒諸君によるところが大きい。とりわけバードウォッチャーである後藤義夫氏や笹原裕二氏のように2000年からの詳細な記録を寄せてくださった方もあり、とくに後藤氏は2002年よりネットを持参してくださるとのこと、感謝にたえない。また分校の生徒諸君も、2人組で島内をパトロールしてくださったそうで、ありがたいことである。また民宿「つかさ」と「つ

き」の皆さんも、夕食時などに積極的にアサギマダラを話題にしてくださっているようであり、へぐら航路の皆さんもポスターの掲示を快く許可してくださり感謝している。

最後に、本プロジェクトについての構想をもたれて企画立案された松井正人氏、その準備にあたり積極的に御協力くださった藤井 恒、金沢 至の両氏に心よりお礼を申し上げる。

表1. 2000年と2001年の記録

観察年月日	観察数	観察者	観察時間	天候
2000年5月28日	多数目撃	後藤義夫		
2000年5月29日	多数目撃	後藤義夫		
2000年9月25日	3頭目撃	後藤義夫		
2000年10月2日	3頭目撃	笹原裕二	10:30～	曇のち雨
2000年10月3日	3頭目撃	笹原裕二	～15:00	曇時々雨
2000年10月3日	10頭前後目撃	バート・ウォッチャー		
2000年10月4日	10頭前後目撃	バート・ウォッチャー		
2000年10月7日	目撃せず	日吉芳朗	10:30～14:30	快晴
2000年10月9日	3頭目撃	笹原裕二	10:30～15:00	雨のち曇
2001年4月8日	目撃せず	笹原裕二	10:30～15:00	快晴
2001年4月30日	目撃せず	笹原裕二	10:30～15:00	晴
2001年5月12日	目撃せず	笹原裕二	10:30～15:00	快晴
2001年5月14日	1頭目撃	分校生徒2名	12:30	
2001年5月28日	1頭目撃	後藤義夫		
2001年5月29日	1頭目撃	分校生徒1名	16:00	
2001年5月30日	多数目撃	バート・ウォッチャー		
2001年5月30日	多数目撃	橘和雄	午後から	
2001年5月31日	多数目撃	橘和雄		
2001年5月31日	多数目撃	バート・ウォッチャー		
2001年5月31日	1頭目撃	分校生徒1名	9:45	
2001年5月31日	2♂採集1頭目撃	水越千博・生徒1名	10:00	
2001年5月31日	目撃せず	笹原裕二	10:30～15:00	曇時々小雨
2001年6月1日	ほとんど見られず	バート・ウォッチャー		
2001年6月2日	1♂1♀マーク	日吉南賀子	11:00	快晴
2001年6月2日	2頭目撃	日吉南賀子	14:00	快晴
2001年6月7日	4頭目撃	麻田昇	11:30～12:00	曇
2001年6月9日	1♂マーク1頭目撃	根塚幹雄		
2001年6月9日	2♂マーク1♂目撃	根塚幹雄		
2001年7月29日	目撃せず	日吉芳朗	10:30～14:30	晴
2001年8月14日	2頭目撃	後藤義夫	6:15～25	
2001年9月3日	目撃せず	後藤義夫		
2001年9月4日	目撃せず	後藤義夫		
2001年9月5日	目撃せず	後藤義夫		
2001年9月6日	目撃せず	後藤義夫		
2001年9月22日	目撃せず	後藤義夫		
2001年9月23日	目撃せず	後藤義夫		
2001年9月24日	1頭目撃	後藤義夫	13:15	
2001年10月5日	1頭目撃	中村久夫	10:00	晴
2001年10月5日	1頭目撃	分校生徒2名	夕方	
2001年10月6日	目撃せず	日吉芳朗	10:30～14:30	晴
2001年10月15日	目撃せず	笹原裕二	10:30～15:00	快晴

《参考文献》

日吉芳朗(2001)アサギマダラを求めて輪島市舳倉島をおとずれる. 翔(149):3-4.

松井正人(2001)能登半島での取り組み. 昆虫と自然 36(5):23-24.

矢田新平(2001)舳倉島鳥類調査の夜明け. 石川の野鳥(100):2-3. 日本野鳥の会石川支部

《ひよし よしろう・ながこ 〒928-0001 輪島市河井町1部64-1》

ゴマダラチョウより大きなオオムラサキの越冬幼虫を観察

日吉 宏 朗

金沢市大平沢地内のエノキから越冬幼虫を探し、オオムラサキの幼虫3頭、ゴマダラチョウの幼虫3頭を得た。その中に、ゴマダラチョウの越冬幼虫より大きなオオムラサキの越冬幼虫を見いだしたので、報告する。

■1999年12月14日 金沢市大平沢 日吉宏朗採集

オオムラサキ越冬幼虫の大きさ 16mm、17mm、20mm

ゴマダラチョウ越冬幼虫の大きさ 18mm、20mm、21mm

オオムラサキの越冬幼虫はゴマダラチョウのそれよりも小さいとされている（白水・原、1960）が、筆者は金沢市産の飼育により4齢越冬幼虫のサイズが16～18mm、5齢のサイズが18～20mmと観察している（いずれも3月に計測）ので、ゴマダラチョウよりも大きい20mmサイズのオオムラサキは、5齢の越冬幼虫の可能性が高い。

《 参考文献 》

白水 隆・原 章（1960）原色日本蝶類幼虫大図鑑VOL.1：47.

《ひよし あつろう 〒928-0001 輪島市河井町1部64-1》

巡りくる季節

五 萌 夢 美

季節は巡り、ギフチョウの季節がやってきた。今年で何度目なのだろう。幼かった頃、一生のうちでギフチョウの季節には何度巡りあえるのかと考え、そのあった。

ギフチョウとの出会い、出会いには特別なから始まる。昔も今も何かが変わってきた。

たったのと感じている。かあると感じている。か会い、今では巡り会え



ウの季節には何度巡りあ少なさに泣いたことが

いを待ち焦がれる雪解思いがあり、1年はそこ変わっていない。でも、

たその回数、今ではまだつては少なさに泣いた出る喜びに変わっている。

2001年アサギマダラ日記

松井正人

■ 5月27日 成虫初観察

今年始めてアサギマダラを観察する。場所は金沢市専光寺海岸。専光寺海浜公園は、トベラが満開で甘い香りが漂っていた。朝8時頃にトベラの横を通りかかるとアサギマダラが1頭飛び上がった。トベラで吸蜜していたのかもしれない。10時頃にはスナビキソウが咲く波打ち際近くでアサギマダラを観察したが、この時も吸蜜は観察できなかった。11時半頃、今度はネットを持って再びスナビキソウの所へ行くと、アサギマダラが飛んでいたのので採集し、今年初のマーキングを行う。スナビキソウでの吸蜜は、この時も観察できなかった。

午後から白山方面に出かけ、白峰村や尾口村でもアサギマダラを観察した。この時期は、海岸から山地にかけて広く飛来しているようだ。

2001年5月27日	金沢市専光寺海岸	1♂マーキング2頭目撃	松井正人
2001年5月27日	石川郡白峰村百合谷	1頭目撃	松井正人
2001年5月27日	石川郡尾口村一里野	1頭目撃	松井正人

■ 6月9日 卵を初観察

山中町鶴ヶ滝の林道脇は、オオカモメヅルがひときわ伸びて目立っていた。ここでは21株を調査し1卵を観察した。白山方面でも調査したところ、各地で卵を観察したものの幼虫は観察できなかった。

2001年6月9日	江沼郡山中町鶴ヶ滝	1卵目撃 (オオカモメヅル)	松井正人
2001年6月9日	石川郡白峰村百合谷	39卵目撃 (イマ)	松井正人
2001年6月9日	石川郡尾口村一里野	2卵目撃 (オオカモメヅル)	松井正人
2001年6月9日	石川郡尾口村三又発電所	4卵目撃 (オオカモメヅル)	松井正人

■ 6月10日 加賀に続いて奥能登でも卵を観察

加賀では既にアサギマダラの産卵が確認できたが、能登ではどうか。加賀と能登で差はあるのかを確認しようと、能登での卵調査を行った。奥能登でも卵は観察でき、幼虫は観察できなかったことから、加賀と能登における産卵時期には差が無いように思われた。

2001年6月10日	珠洲市宝立山	3卵目撃 (オオカモメヅル)	松井正人
2001年6月10日	輪島市鉢伏山	1卵目撃 (オオカモメヅル)	松井正人
2001年6月10日	輪島市高洲山	2卵目撃 (オオカモメヅル)	松井正人
2001年6月10日	輪島市高洲山赤坂	1卵目撃 (オオカモメヅル)	松井正人

■ 7月25日 鉢伏山に台湾アサギマダラを求めて

前日の24日、日吉芳朗氏は、鉢伏山でアサギマダラのマーキング中に台湾アサギマダラを採集した(日吉, 2001)。複数での飛来もあり得ると、水曜日であるにもかかわらず鉢伏山へ調査に出かける。8時から台湾アサギに注意しつつ、アサギマダラのマーキングをしていると、奥の方から日吉氏の声が聞こえてきた。なんと日吉氏は、6時半からマーキングしているとの事だった。

日吉氏は、11時頃に山を下りたが、13時頃に藤井 恒氏が現れた。藤井氏も台湾アサギが気になったらしいが、高速道路が事故で2時間遅れたらしい。結局、2頭目の台湾アサギは観察できなかった。

2001年7月25日 輪島市鉢伏山 93♂55♀マーキング 松井正人

■ 7月28日 宝達山の早朝マーキングスタート

日吉芳朗氏を見習い、早朝マーキングを始める。6時半に着いたが、いつものブナ林周辺では全く観察できない。あちこちと探し回ると、スギ林内にポツポツ咲いているヒヨドリバナにアサギマダラが止まっていた。吸蜜しているアサギマダラは白タオルにも反応せず、一心に蜜を吸っている。林内は朝露でぐっしょり濡れているが、意を決して入っていくと全身ずぶぬれ、ノイバラもたくさんありズボンを通して足をひっかく。何度か行ったり来たりすると、踏み分け道ができてきた。

8月4日は7時からスタート。前回歩いているので道はできている。アサギマダラのミスネットも無く快調にマーキングが進むが、やはりアサギマダラの絶対数が少ない。双眼鏡で、遠くのヒヨドリバナに止まっているアサギマダラを捜し出し、捕獲に向かってもマークの付いた個体ばかりとなる。そんな中で採集した1頭が「石ひよし312」だった。鉢伏山からの飛来である。一気に気力も体力も回復する。この日は、シオデの花に止まっている2♂を観察したが、吸蜜していたかは分からない。

2001年7月28日 羽咋郡押水町宝達山 7♂2♀マーキング 松井正人
 2001年8月4日 羽咋郡押水町宝達山 16♂1♀マーキング 松井正人
 2001年8月5日 羽咋郡押水町宝達山 1♂2♀マーキング 松井正人
 2001年8月11日 羽咋郡押水町宝達山 3♂マーキング 松井正人

■ 8月12日 新潟県米山でマーキング

7月下旬に奥能登から飛びたったアサギマダラは何処へ向かうのか。珠洲岬から日本海に飛び立ち、佐渡、あるいは上越地方のどこかに再上陸するのではないのだろうか。新潟県のアサギマダラに関する情報は全く分からず、自分で探し出す事にした。海岸近くにある車で標高が稼げる山を探すと、柏崎市の米山があった。米山林道から入れば標高750mまで車で登れ、徒歩では240mを登るだけだ。

能登発のアサギマダラを採集すべく、米山へ向かったが米山は雲の中、頂上だけが雲から頭を出していた。頂上まで徒歩20分。眺めは良く、日本海が一望できる。メスグロヒョウモンやツマグロヒョウモンが占有行動をし、遠くでコエゾゼミかエゾゼミが鳴いていた。しかし、アサギマダラの姿は何処にも無い。熊野権現まで足をのびしたが、一緒であった。

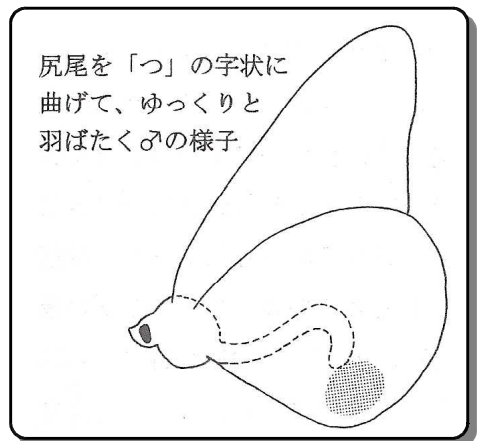
ピークの社で飛来を期待していると、10時38分に突然1♀が降ってきた。とにかくヨレヨレに疲れているようで、落ちるように飛んできて、社の前の木に止まった。マーキング後に手を放すと、普通はフワフワと飛んでいくのだが、ポトンと落ちてしまった。擬死かと思ったが、そうではないようで、木の葉の上に置くと、しばらくして羽を広げ尾をやや持ち上げた姿勢を保った。

観察できたアサギマダラは、この1♀だけで、当初の計画は失敗に終わった。

2001年8月12日 新潟県柏崎市米山 1♀マーキング 松井正人

■ 9月1日 においづけ行動を観察

宝達山早朝マーキングで、アサギマダラのおもしろい行動を観察した。8時50分、気温は18℃。スギ林内のスポット的な陽当たりで、しっぽをやや持ち上げて「つ」の字状に曲げ、ゆっくりと羽ばたいている2♂がいた。何の為の行動かと思っていたら、尾形(1998)にある「オスのおいづけ行動(写真3)」としっぽの曲げ方が同じであった。ゆっくりと羽ばたいている状態を横から見ていたので、ヘアペンシルは観察できなかったが、尾端は性標に接する位置にあった。



尻尾を「つ」の字状に曲げて、ゆっくりと羽ばたく♂の様子

2001年9月1日 羽咋郡押水町宝達山 4♂マーキング 松井正人

■ 9月9日 アサギマダラの宿場街

宝達山にアサギマダラがやってきた。今日は1日中マーキングしていたが、始めと終わりにアサギマダラの飛翔数が多いことに気が付いた。まるで、宿場街のようで、朝の出立時のにぎわいと、夕方の到着時のにぎわいがあるかのようだった。

アサギマダラの時間帯別マーキング頭数

時間帯	10時台	11時台	12時台	13時台	14時台	15時台	16時台
頭数	16	9	7	5	15	19	21

2001年9月9日 羽咋郡押水町宝達山 80♂12♀マーキング 松井正人

■ 9月23日 豪華メンバーでマーキング

宝達山は快晴、絶好のマーキング日和かと思われたが、気温が低い。10時の気温は14℃、14時になってやっと17℃まで上昇した。アサギマダラは、午前中は全く現れず、午後1時頃からポツリポツリと現れ始め、14時半位からやや多くなった。

今日のメンバーは豪華で、三重から多田さん夫妻、京都からは藤井さん一家、金沢からは、吉永さん一家、澤田さん夫妻、河崎さんチームが参加した。午後1時過ぎからとアサギマダラの出現は遅かったが、豪華メンバーの白タオルにひかれたアサギマダラは、次々とマークされ、最終的に57頭がマークされた。

2001年9月23日 羽咋郡押水町宝達山 12♂5♀マーキング 多田弘一・和美

2001年9月23日 羽咋郡押水町宝達山 22♂11♀マーキング 藤井 恒・他

2001年9月23日 羽咋郡押水町宝達山 1♂1頭マーキング 河崎悦子・他

2001年9月23日 羽咋郡押水町宝達山 3♂2♀マーキング 松井正人

■ 9月26日 宝達山のマーキング台

宝達山ブナ林下の谷の中程にマーキング台がある。大きな木が根こそぎ倒れたもので、その根の上に立てば灌木帯の上に立つことができ、見通しが良くなる。ここに立ってタオルを回せば効果は絶大で、谷の内のアサギマダラはスーッと寄ってくる。しかし、最近は周りの木々が大きくなり、マーキング台が早々と日陰になることから、タオル効果がだんだんと落ちてきた。そろそろ移動式マーキング台が必要かもしれない。

2001年9月26日 羽咋郡押水町宝達山 1♀採集13♂8♀マーキング 松井正人

■ 10月6日 高爪山で最後のマーキング

海岸のヒヨドリバナ群落へ調査に出かけたが、アサギマダラは影も形も無く、最大のヒヨドリバナ群落は完全にクズ原と化していた。海岸がダメならと近くの山、能登富士と称される標高341mの高爪山へ向かった。高爪山は、高木層にタブ・スダジイ、亜高木層にヤブツバキ・ヒサカキと能登の原植生を残している。寒々としたこの時期の落葉樹林と違って、アサギマダラが飛んでいそうな気がしていたが、なんと本当にアサギマダラが飛んでいた。ピークの社の後ろのやや平坦な場所に舞っていた。あわてて白タオルを回すとスーッと引き寄せられ、難なく採集しマークする。中破の♂で、この♂が今年の最後のマーキングになった。

2001年10月6日 鳳至郡門前町高爪山 1♂マーキング 松井正人

《参考文献》

日吉芳朗 (2001) 石川県輪島市でタイワンアサギマダラを採集. 月刊むし (370) :2.

尾形之善 (1998) 周年経過: 越冬状況と春から初夏の生態. 昆虫と自然 (430) :10-11.

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

マイマイの油抜きに大忙し

井村会長、仕事で忙しいと言いつつも、暇を作ってマイマイ採集に出かけている。糸魚川と朝日でゴツソリ仕入れたマイマイ、どうやってアセトンにつけようかと考えあぐねている。

オーストラリアへ行った指田氏

指田氏、二月末から三月はじめにかけてオーストラリアに行ってきた。日中は三十三度以上になり、正に夏だったが、なぜかネットを振らず、凶鑑を買ってきた。

エゾゼミの声には気をつけよう

日本ゼミの会々報に、金沢競馬場のスジアカクマゼミが報告された。現在のところ、日本唯一の発生場所となっているが、国内のどこかに本来の侵入地があり、そこからの二次侵入とも考えられるらしい。鳴き声はエゾゼミに似ているので、エゾゼミの声には気をつけるよう報告している。

奥能登でスジボソヤマキを目撃

最近の観察記録が無い奥能登のスジボソヤマキチヨウが、柳田村で目撃された。ギフチヨウ調査時にも良く見かけるので、分布調査は案外この時期が良いのかもしれない。

初飛観察は三月十六日

三月十六日、うらかな陽気に誘われ、久慈、指田、嵯峨井、松井の各氏は、小松各地でギフチヨウの初飛を観察した。オオイヌノフグリやウメでの吸蜜や、羽化したての♀など、一番ギフを堪能した。

今年のギフチヨウは早かった

三月九日に天竜市、十三日に弥彦山で発生が確認されている。県内は、九日には発生が確認されていず、十六日までの間に発生したと思われるが、ウィークデーは調査に出られない。

松井氏、デジカメを購入

光学式に比べて軽量小型で

持ち運びに便利、おまけに再生が直ぐできる。今まで写真の状態でただだけに、これで万全。まずは十六日の初ギフをおさめた。

輪島で採卵に励む若きホープ

奥能登昆虫界の若きホープの宏朗氏、ミドリシジミの採卵に励み、新産地が次々と見つかっている。今後は、高木のジヨウザンやエゾ、低木のウラクロやウラゴマもと、闘志を燃え立たせている。

あなたはいくつ食べられるか

最近、昆虫食の話題が絶えないが、岡エビと称するイナゴは美味、蚕の蛹もこれまたうまい。蜂の子は小型種なら生で最高、舌の上でつぶした時のとろみがたまらない。いづれも酒の肴に最高だが、今一番食べたいのは蚕の蛹。

翔一五四号八ページの訂正

石川県産の記録の少ないピドニアの追加記録(井村正行)

のミセンヒメハナ既採集記録(誤)♂2頭↓(正)♀2頭

例会の記録

二月七日(木)城南管工一階にて八時から開催。

まずは、北海道で発見されたエゾウラギンヒヨウモン。藤岡氏が「月刊むし」に発表した写真を参考にしながら、ウラギンとの相違点を捜すが、「二♂だけではわからない」が感想だった。続いては、秋田のギフツアー。指田氏が、盛んにPRし、同行者を募るが、昨年のももあり、ツアーは成立しなかった。

その他の話題では、アフガニスタンの地図を手に入れたが、一日三十時間の日帰り採集行、アセトンにつけた後は水につける、展翅板の上で標本がかびる、湿度差が大きいと標本が狂い易い、湿度が高くて標本箱が開けられない、標本箱共同購入の話などなど。

参加は、生田(耕)、吉村、井村、大脇、指田、山岸、久慈、松井、中西、細沼の十人。

会員の動き・しゃばの動き

日本産蝶類文献目録の続編
 白水隆編の同文献は、一九八五年に発行され、一九七七年までの文献が掲載されている。続編は、一九七八年以降の文献を取り扱い、一年後の発行をめどに編集が進められているらしい。

今年の新年宴会は一月一八日
 一月一八日(金)金沢駅前
 で恒例の新年会を開催。輪島や福井からの参加もあり、一六人が参加したが、福井から参加した山岸氏は、サンダーボードに乗り遅れ、一時間遅れの合流となった。

マイマイやゲンゴの油抜き
 油の抜けたマイマイやゲンゴは絶品で、本物の色や模様は油を抜かないと分からない。まずは、タトウに載せて

アセトンにつける。アセトンが濁ると新しいアセトンにつけ直す。アセトンの濁りが無くなったら、次にタトウのまま水につけると、程良く湿気が戻り、整形も可能になる。

防虫剤について考える

ミセスロイド、ピレパラアース、ゴン、ムシューダ等、従来の忌避系防虫剤に対して、神経系を麻痺させるピレスロイド系の防虫剤が最近幅を利かせている。無臭であり、防虫性、殺虫性、持続性ともに優れ、価格も効力比較でパラゾールに匹敵する。ところが、いづれも一個当たりの効力が強過ぎて、ミセスロイドは標本箱にコンマ四個、ピレパラはコンマ七個で済む。それを一個入れるとなれば、パラゾールより割高となる。

高湿度で標本箱を開けたくない
 北陸は、湿度が高い。部屋の湿度計は七十%台から八十%台が普通で、九十%台が続く事もあり、標本箱を開ける気がしない。どうしても標本箱を開けたい時は、朝から除湿器を回し、六十%台になったところで開けている。

マイマイやゲンゴの油抜き2
 アセトン法は、時間と費用がかかるが、油の元を断つ方法もある。腹部と上翅の間にメスを入れ、腹部内容を全て取り除けば、油は出ない。

標本箱一陣三十箱が到着

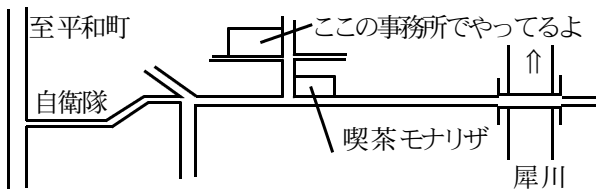
二月例会で注文を聞いた標本箱の一陣が到着した。一番先に注文していた細沼氏に五箱、一番多い指田氏に二十箱、残り五箱は、とりあいで喧嘩になるとまずいので、仕入れ係りの嵯峨井氏に落ち着いた。井村会長、久慈氏、大脇氏、山岸氏は、第二陣を待つことになった。

翔 155号

Tobu 2002年4月1日発行
 百万石蝶談会

<http://member.nifty.ne.jp/hakusan/>
 金沢市大場町東871-15 松井方
 ☎920-3121 ☎076-258-2727
 郵便振替 00750-8-562
 印刷 小西紙店印刷所

例会は偶数月・5月・7月の第1木曜日8時から
 TEL参加もOKです (076-244-3318)



目 次 (155号)

日吉芳朗・日吉南賀子：

 舩倉島におけるアサギマダラ調査とこれまでの成果 … 1

日吉宏朗：ゴマダラチョウより大きなオオムラサキの越冬幼虫を観察 4

五萌夢美：巡りくる季節 …………… 4

松井正人：2001年アサギマダラ日記 …………… 5

編集部：会員の動き・しゃばの動き ……………10